

論文要旨

Seven-day services in surgery and the “weekend effect” at a Japanese teaching hospital: a retrospective cohort study

(土日週日化実施病院における手術と Weekend Effect の検討)

Patient Safety in Surgery, vol.14, No.24, 2020

専攻名 社会医学系衛生学公衆衛生学 的場匡亮

内容要旨 (1200 字以内)

【目的】病院は週末に利用できるリソースが少ないこともあり、週 5 日を通常稼働日とするモデルで運用されていることが多い。過去の研究では週末の入院または手術における転帰不良の傾向が観察され、この現象は” Weekend Effect” と呼ばれている。本研究は、土日を週日化し待機的手術を実施する病院において、麻酔科管理手術の” Weekend Effect” を検討することを目的とした。

【対象と方法】

2014 年 4 月から 2016 年 10 月までに手術を受けた患者を対象とし、当該手術から 30 日以内の院内死亡率を平日と週末で比較した。患者特性の統計解析には Mann-Whitney U 検定またはカイ 2 乗検定を、死亡率の統計解析にはロジスティック回帰分析を用いた。

【結果】

期間内の手術 7,442 件のうち、1,386 件 (19%) が週末に実施された。947 件の緊急手術のうち、235 件 (25%) が週末に実施され、術後 30 日以内の死亡率は平日 21% (15/712)、週末 55% (13/235) であった (調整オッズ比: 2.7、95%CI: 1.2~6.5)。6,495 件の待機的手術のうち、1,151 件 (18%) が週末に実施され、術後 30 日以内の死亡率は平日 2.3% (12/5344)、週末 0.87% (1/1151) であった (調整オッズ比: 0.4、95%CI: 0.05~3.2)。

【結論】

平日と週末を比較すると、緊急手術において週末の 30 日死亡率が高かったが、待機的手術では差異がみられなかった。これらの結果は、休業日の見直しや、週末の待機的手術実施を検討する病院にとって参考になるとと思われる。